

交付運用報告書

愛称：なごみの杜 マルチアセット・ストラテジー ファンド

追加型投信／内外／資産複合

第1期＜決算日2019年2月12日＞

作成対象期間：2018年6月20日～2019年2月12日

| 第1期末（2019年2月12日） | |
|------------------|-----------|
| 基準価額 | 9,892円 |
| 純資産総額 | 10,611百万円 |
| 騰落率 | △1.1% |
| 分配金合計 | 0円 |

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「マルチアセット・ストラテジーファンド」は、2019年2月12日に第1期の決算を行いました。

当ファンドは、GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンドを通じて国内外に上場する投資信託証券および指数先物、国債を主要投資対象とし、中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

当ファンドは、信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセスし、「ファンド」から当ファンドの詳細ページを表示させ、当該ページから運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区西神田3-8-1

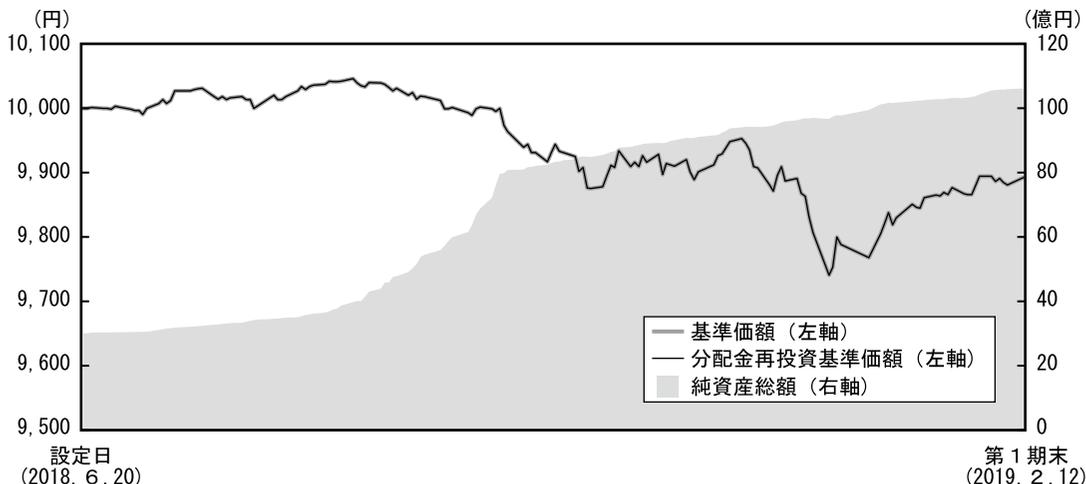
お問い合わせ先（クライアント・リレーションズ・グループ）

TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）

URL：<https://www.gci.jp>

運用経過

■ 基準価額等の推移



設定日：10,000円

第 1 期末：9,892円 (既払分配金 (税引前)：0円)

騰落率：△1.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は下落し、当期間のリターンは△1.1%となりました。

期初 (ファンド設定日) から 8 月下旬にかけては、方向感のない相場展開の中、米国債、フランス国債を中心に国内株式と欧米株式を組み入れたポートフォリオで機動的な売買を行い基準価額は堅調に推移しました。以降の米国金利の上昇局面では、米国債の組入がマイナスの寄与となりました。また、年末にかけてのグローバル株価の下落局面では、国内株式や欧米株式の組入がマイナスの寄与となりました。ただし、株式の実質組入比率を抑制していたことや、株価下落と同時に米国金利が急低下したため、当ファンドの基準価額の下落は限定的でした。2019年 1 月以降は、株式市場の反発や、欧米金利の一段の低下により基準価額は回復しましたが、当期を通じては下落となりました。

詳しくは、「投資環境」をご参照ください。

■ 1万口当たりの費用明細

| 項目 | 第1期 | | 項目の概要 |
|-------------|-----------------------|---------|---|
| | 2018年6月20日～2019年2月12日 | | |
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 信託報酬 | 56円 | 0.563% | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 当期中の平均基準価額は9,948円です。 |
| (投信会社) | (40) | (0.401) | 委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価 |
| (販売会社) | (14) | (0.141) | 交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| (受託会社) | (2) | (0.021) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | 4 | 0.037 | (b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数×10,000 |
| (投資信託証券) | (3) | (0.034) | 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (先物・オプション) | (0) | (0.003) | |
| (c) その他費用 | 3 | 0.023 | (c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 |
| (保管費用) | (1) | (0.005) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監査費用) | (1) | (0.006) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (その他) | (1) | (0.012) | その他は、信託事務の処理に要するその他の費用 |
| 合計 | 63 | 0.623 | |

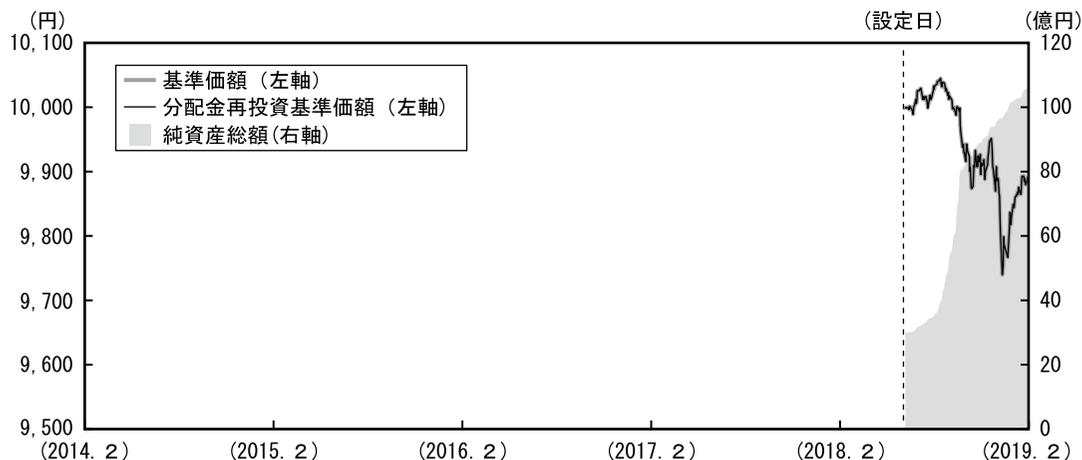
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

■最近5年間の基準価額等の推移

(2014年2月12日～2019年2月12日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

| | 2018年6月20日 設定日 | 2019年2月12日 決算日 |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 10,000 | 9,892 |
| 期間分配金合計 (税引前) (円) | — | 0 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 (%) | — | △1.1 |
| 純資産総額 (百万円) | 3,009 | 10,611 |

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てています。

(注) 騰落率は設定日との比較で小数点以下第2位を四捨五入しています。

■投資環境

2017年に「世界経済同時拡大」はピークをつけ、2018年は欧州、中国で景気が減速する一方、「米国一強」の状態が継続し、米連邦準備制度理事会（FRB）は年4回の利上げを実施しました。そうしたなか、2018年後半にかけ、米中貿易戦争の影響が徐々に実体経済に表れ始め、米国、欧州、中国を中心に経済の下振れリスクが意識される展開となりました。

【国内債券】

当期の国内債券市場は上昇（金利は低下）しました。日本銀行の国債買入オペの減額や長期金利誘導目標の変動幅拡大を背景に、国内10年国債利回りは10月上旬には一時0.15%付近まで上昇しましたが、その後は、世界景気の減速懸念や米国金利の低下に伴いじりじりと低下し、国内10年国債利回りは再びマイナス圏に低下しました。

【国内株式】

当期の国内株式市場は下落しました。期初から9月前半にかけては、日経平均株価は22,000円台半ばでの推移が続きましたが、自民党総裁選での安倍首相の3選を好感する動きや出遅れ感を意識した買いが広がり、10月に24,270円と27年ぶりの高値を更新しました。その後は、米国ハイテク株の急落や米国景気の減速懸念から調整色が強まり、年末には日経平均株価は取引時間中に一時19,000円を割り込む場面がありました。1月以降は、米FRBの利上げに慎重な姿勢への転換により米国株式市場が急反発したことに連れて、日経平均株価も21,000円付近まで回復しましたが、当期を通じては国内株式市場は下落しました。

【米国債券】

当期の米国債券市場は上昇（金利は低下）しました。米FRBが年4回の利上げを進めるなか、良好な米国の雇用環境や賃金上昇を背景に10月上旬に米国10年国債利回りは一時3.25%付近まで上昇しましたが、米国株式の急落を受け金利は低下に転じました。その後は、米国金利の一部の年限において長短金利の逆転現象が見られ景気後退懸念が強まったことや、パウエル米FRB議長が金融引き締めで慎重な姿勢を示したことなどから、一段と金利低下圧力が強まり2019年初には米国10年国債利回りは一時2.54%付近まで低下しました。その後、2.7%付近まで金利は上昇しましたが、当期を通じては米国債券市場は上昇（金利は低下）しました。

【米国株式】

当期の米国株式市場は上昇しました。好調な米企業決算を背景に期初から株価は上昇し、主要株価指数は10月に史上最高値を更新しましたが、ハイテク株の急落をきっかけに下落に転じました。その後も、米国の政府機関閉鎖や英国のEU離脱交渉の混迷等の悪材料が多く調整局面が継続し、クリスマスや年末休暇で取引が細る中、年末には年初来安値を更新しました。しかし、パウエル米FRB議長が金融引き締めで慎重な姿勢へ転換すると、2019年初から急速に回復に転じ、当期を通じては米国株式市場は上昇しました。

【欧州債券】

当期の欧州債券市場は上昇（金利は低下）しました。米国金利の上昇に連動して、ドイツ・フランス10年国債利回りも10月上旬まで上昇しましたが、米国金利の低下やドイツ、フランス、イタリアでの政治の混乱、欧州経済指標の一段の悪化を背景に金利は低下に転じ、当期を通じては欧州債券市場は上昇（金利は低下）しました。

【欧州株式】

当期の欧州株式市場は下落しました。イタリアの財政不安や英国のEU離脱交渉の混迷、フランスの反政府運動などが株価の重石となるなか、ドイツのメルケル首相の求心力低下による政治不安や、経済指標の一段の悪化から軟調な展開が継続し、当期を通じては欧州株式市場は下落しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に国内外に上場する投資信託証券および指数先物、国債に投資を行いました。マザーファンドへの投資については、当期を通じて、当ファンド全体の組入比率が高位となるよう運用を行いました。

マザーファンドにおいては、株式会社和キャピタルより投資助言を受け、ファンダメンタルズ分析に基づき、市場環境を考慮した機動的な運用を行いました。

債券は米国、欧州債券を中心にポートフォリオを構築しましたが、米国10年国債利回りが3.25%付近まで上昇していく局面では、更なる金利上昇は限定的と判断し米国債の実質組入比率を引き上げました。その後の金利低下局面では、段階的に米国債の実質組入比率を引き下げ、2.54%付近に低下した局面では実質組入比率を大幅に引き下げました。欧州債券は、ドイツ国債よりも利回りが高く金利低下余地のあるフランス国債を中心に機動的な売買を行いました。

株式は慎重な姿勢で売買を行いました。10月以降の株価下落局面では、経済の減速懸念が強い欧州株式を売却した一方、株価の下落は行き過ぎであると判断した国内株式は段階的に実質組入比率を引き上げました。また、2019年1月以降の株価回復局面では、変動性の高い相場環境に応じて国内株式の実質組入比率を引き下げるなど、機動的な売買を行いました。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳】

(単位：1万口当たり・税引前)

| 項目 | 第1期 | |
|-----------|-----------------------|----|
| | 2018年6月20日～2019年2月12日 | |
| 当期分配金 | (円) | — |
| （対基準価額比率） | (%) | — |
| 当期の収益 | (円) | — |
| 当期の収益以外 | (円) | — |
| 翌期繰越分配対象額 | (円) | 21 |

(注) 円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

(注) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

【マルチアセット・ストラテジーファンド】

引き続き、運用の基本方針に従い、GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に国内外に上場する投資信託証券および指数先物、国債に投資することにより、中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。マザーファンドの組入比率は、原則として高位を保ちます。

【GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド】

マザーファンドの運用については、株式会社とキャピタルより投資助言を受けます。マザーファンドにおいては、米国、欧州債券を中心に日米欧の株式を適宜組み入れ、機動的な売買を行う方針です。

国内債券については、日銀による金融緩和政策の長期化により、金利は低位での推移が継続すると予想されるため、引き続き慎重な姿勢とします。

国内株式については、米中貿易交渉の進展や中国の景気対策の効果から、2019年前半は底堅い展開が予想されるため、株価の下落局面では組入比率を引き上げる姿勢を基本とします。しかし、年後半は米国の景気後退が意識され、徐々に上値が重くなる展開が予想されるため、相場状況に応じた機動的な売買を行う方針です。

米国債券については、好調な労働市場を背景とした旺盛な個人消費に支えられ、2019年前半は景気拡大が予想されますが、欧州や中国の経済が弱いことや米FRBの慎重な利上げ姿勢により、金利上昇は限定的と考えられるため、一時的に金利が上昇する局面では、組入比率を引き上げていく方針です。

米国株式については、2019年前半は底堅い推移を予想するものの、徐々に神経質な展開が見込まれるため、慎重な姿勢とします。

欧州債券については、不安定な政治、硬直的な財政政策などから欧州経済の回復が鈍く、金利上昇は限定的であると予想されるため、一時的に金利が上昇する局面では組入比率を引き上げる姿勢を基本とします。

欧州株式については、景気後退懸念から上昇は限定的と予想されるため、慎重な姿勢とします。

お知らせ

◇約款変更

- ・電子公告のアドレスを変更するため、所要の変更を行いました。（変更日：2018年9月20日）

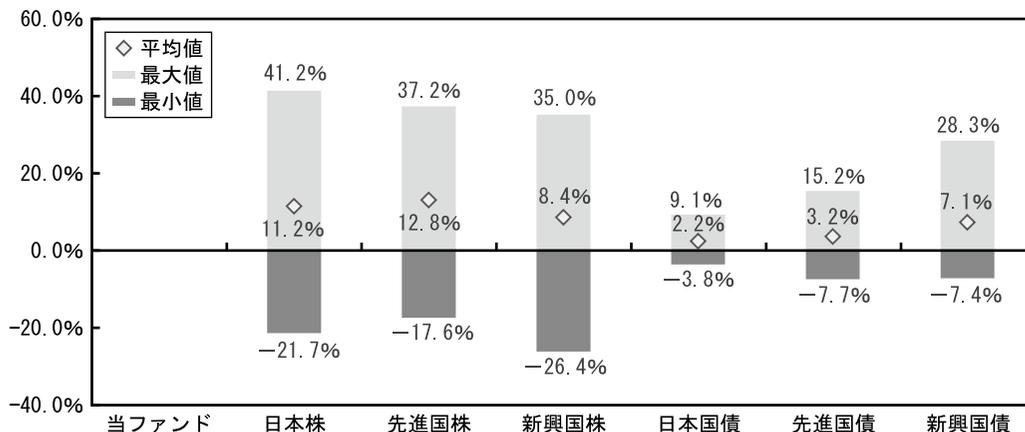
◇運用体制の変更

- ・組織改正に伴い、本ファンドの運用担当者の所属部署がインベストメント・グループからインベストメント・ソリューション・グループへ変更となりました。（変更日：2019年1月1日）

当該投資信託の概要

| | | |
|--------|--|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合 | |
| 信託期間 | 2018年6月20日から2023年2月27日までです。 | |
| 運用方針 | 中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | マルチアセット・ストラテジーファンド | GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。 |
| | GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド | 国内外に上場する投資信託証券および指数先物、国債を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | 主として、GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンドの受益証券への投資を通じて、先進国株式、先進国の国債を中心にグローバルな分散投資を行います。現物投資に加えてデリバティブ取引を行い、投資環境に応じて現金等を含む各資産の実質的な配分比率を機動的に変更します。マザーファンドの運用にあたっては、株式会社和キャピタルより投資助言を受けます。 | |
| 分配方針 | <p>年2回（毎年2月10日・8月10日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みません。）等の全額とします。 ・ 収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。 | |

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



期間：2014年2月～2019年1月

(注) 2014年2月～2019年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 当ファンドは2018年6月20日に運用を開始したため、表示に必要とする年間騰落率のデータはありません。

< 代表的な各資産クラスの指数 >

- 日本株：Morningstar 日本株式(グロス・リターン)
- 先進国株：Morningstar 先進国株式(除く日本、グロス・リターン)
- 新興国株：Morningstar 新興国株式(グロス・リターン)
- 日本国債：Morningstar 日本国債(トータル・リターン)
- 先進国債：Morningstar グローバル国債(トータル・リターン)
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債(トータル・リターン)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

<< 各インデックスの成立ち・計算方法等の概要説明 >>

- 日本株：Morningstar 日本株式(グロス・リターン)
Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式(除く日本、グロス・リターン)
Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式(グロス・リターン)
Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債(トータル・リターン)
Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債(トータル・リターン)
Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債(トータル・リターン)
Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

＜重要事項＞

マルチアセット・ストラテジーファンド（以下、「当ファンド」といいます）は、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.の関連会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または一般的な内外の株式・債券・REIT市場の騰落率と連動するMorningstarインデックスの能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。株式会社GCIアセット・マネジメントとMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」といいます）の使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、株式会社GCIアセット・マネジメント及び当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

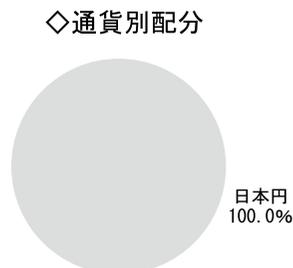
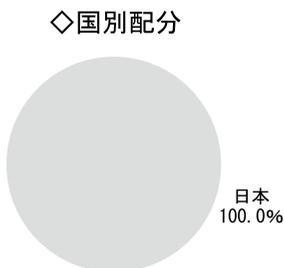
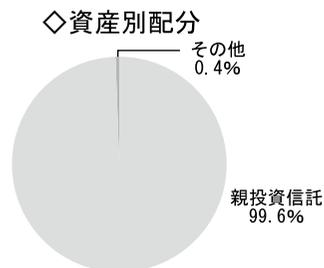
◇組入ファンド等

（組入銘柄数：1銘柄）

| | 第1期末 (2019年2月12日) |
|-------------------------|----------------------|
| GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド | 99.6% |
| その他 | 0.4% |

（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する評価額の比率です。

（注）その他は現金等です。



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）国別配分は、国・地域別による配分で比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

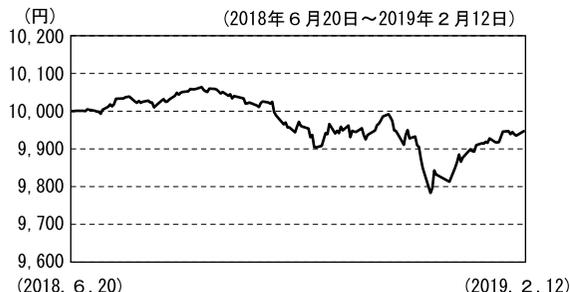
| 項目 | 第1期末 2019年2月12日 |
|------------|--------------------|
| 純資産総額 | 10,611,296,353円 |
| 受益権総口数 | 10,727,167,224口 |
| 1万口当たり基準価額 | 9,892円 |

（注）当期中における追加設定元本額は7,772,185,526円、一部解約元本額は55,010,409円です。

■組入上位ファンドの概要

《GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド》

◇基準価額の推移



◇1万口当たりの費用明細

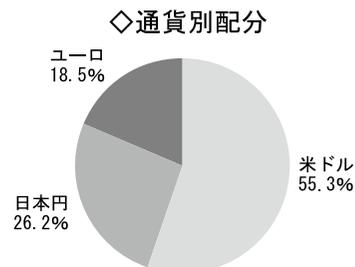
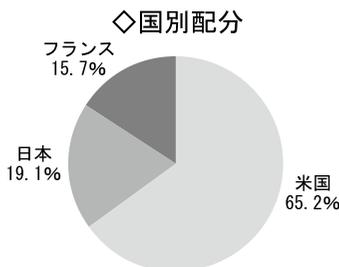
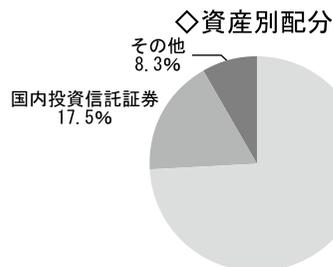
(2018年6月20日～2019年2月12日)

| 項目 | |
|---------------------------------------|------------------|
| (a) 売買委託手数料 (投資信託証券) (先物・オプション) | 4円 (3) (0) |
| (b) その他費用 (保管費用) (その他) | 2円 (1) (1) |
| 合計 | 6 |

◇組入ファンド等

2019年2月12日

| | 銘柄名 | 種類 | 組入比率 (%) |
|-------|-----------------------------|--------|----------|
| 1 | 日経225連動型上場投資信託 | 投資信託証券 | 17.5 |
| 2 | US TREASURY 3.125% 11/15/28 | 債券 | 16.3 |
| 3 | フランス国債 0.75% 11/25/28 | 債券 | 14.4 |
| 4 | US TREASURY 2.875% 08/15/28 | 債券 | 11.7 |
| 5 | US TREASURY 2.875% 05/15/28 | 債券 | 6.4 |
| 6 | US TREASURY 2.875% 10/31/23 | 債券 | 6.4 |
| 7 | US TREASURY 2.625% 02/15/29 | 債券 | 6.3 |
| 8 | US TREASURY 2.750% 08/31/23 | 債券 | 5.3 |
| 9 | US TREASURY 2.875% 09/30/23 | 債券 | 4.3 |
| 10 | US TREASURY 2.625% 07/31/20 | 債券 | 3.1 |
| 組入銘柄数 | | | 10銘柄 |



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注) 1万口当たりの費用明細は、各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注) 1万口当たりの費用明細、組入ファンド等、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注) 組入ファンド等、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。